

シリーズ 第8回 この本をあなたにも薦めたい



財団法人
伊藤青少年育成奨学会
選考委員 長谷川 佳子

『大地』(一)～(四) パール・バック著

時代を超えても世界中で読み継がれている「大地(一)～(四)」私も若かりし頃、初版本(新居格)に出会い、波瀾に富んだ物語性にひきこまれました。様々な個性をもった登場人物たちの生々しい人生が急速な近代化を遂げた動乱期の中国において一層劇的になっているからです。人の生涯は順調に進むのがむしろ珍しく、変転が普遍的ですが、若い皆さんは敢えて教訓を垂れてもらうより、人生をありのままに描き、人生そのものが教訓になると考えていた著者の巧みな描写力に圧倒されるはず。大陸独特の悠久な時間間隔に浸りながらも、生きる命題を考え始めることができるかと思えます。生きるとは・家族とは・示唆に満ちた壮大なドラマはまた、具体的写実的表現に徹して英語での読書に挑戦されても飽きない適切な小説です。高校時代に試みた私は長さを理由に途中で断念した苦い記憶がありますが、読破は達成感とともに英語の運用力の大きな自信に繋がると思えます。尚、近著では鮮やかな訳の『小野寺健・大地(一)～(四)岩波文庫』がどこの図書館でも読者を待っています。

著者パール・バックは周知のように東西の理解と女性の権利拡張のために力を尽くしました。しかし、もしかすると彼女の中国像は実は矛盾にみちいて、これ乗り越えられる中国観を、ひいては人間の歴史や文化を見る目を探していたかもしれません。読書は自分の体だけでは体験しきれない想像的な空間の拡がりを感じ、目に見えないものを自分の中で構築していく時間です。皆さんは何を見つられるでしょうか。



『大地』(一)～(四)
作者:パール・バック 出版社:新潮社

奨学生の年度別、出身高等学校別実績(1～4年生)

出身高等学校	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	合計
恵那	名古屋大	岐阜大 東京大	名古屋大 明治大 早稲田大	京都市大 慶應義塾大 静岡大	9
恵那 農業	千葉大			新潟大	2
中津	岡山大	愛知淑徳大	立命館大 三重大		4
中津 商業	日本体育大	山梨学院大	白鷲大 京都橘大		4
土岐 商業		早稲田大 富山大		滋賀大	3
多治見 北	南山大	京都大	愛知県立大 岐阜大	立教大 名古屋大	6
多治見	静岡大 愛知大		岐阜大		3
瑞浪 麗澤	愛知淑徳大		千葉大		2
中京		早稲田大			1
可児	東京大	名古屋大	静岡大		3
帝京大学 可児		同志社大			1
加茂	富山大				1
美濃 加茂			名古屋大		1
関			名古屋大	名古屋大 岐阜大	3
武義			名古屋大		1
岐阜	大阪府立大 金沢大	名古屋大 慶應義塾大	津田塾大 岐阜大	東京大 中央大 名古屋大 早稲田大	10
岐阜 北		名古屋大 金沢大	名古屋市立大	神戸大 名古屋大	5
加納		愛知教育大	岐阜大 信州大	大阪大	4
長良	岐阜大			名古屋市立大	2
岐山	静岡大	日本福祉大	南山大	慶應義塾大	4
県立岐阜商業	静岡大	横浜国立大 名古屋芸術大	中央大	中央大	5
岐阜各務野				法政大	1
岐阜聖徳大学付属		東京農工大			1
大垣 北	京都大	東京大 京都大	東京大(3人) 京都大	大阪大 東北大	9
大垣 南				岐阜大	1
池田		山梨大			1
郡上	金沢大	金沢大			2
斐太	金沢大			岐阜聖徳学園大	1
吉城					1
斐太 農林	四日市大				1
滝		長崎大		国際基督教大	2
名古屋		早稲田大			1
大垣 検	早稲田大				1
合計	20	25	25	26	96

●全国の国公立大学、私立大学入学者の中から、毎年25名(平成17年度までは20名)・月額3万円を4年間支給します。(返還の必要はありません。高校3年生の時に選考します。)

奨学会からのお知らせ 平成21年度前期奨学金支給のための「生活学業状況報告書」の提出は4月1日～20日となっておりますので他の書類と併せて提出して下さい。

財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1
TEL 0572-20-0800(直) FAX 0572-29-1168

E-mail: webmaster@ito-zaidan.or.jp
U R L: http://www.ito-zaidan.or.jp/
発行:財団法人 伊藤青少年育成奨学会
印刷:トーヨー印刷株式会社

伊藤青少年育成奨学会
奨学会だより
2009.4.1 vol.8
年2回発行 (4月・10月)
■伊藤理事長からのメッセージ
■先輩からの便り紹介
■奨学生の声の紹介
■奨学生の出身高校別実績
シリーズ 第8回 この本をあなたにも薦めたい

立派な日本人に

もう随分昔のことですが、今とくらべて物質的にもはるかに恵まれず、かつ戦争という政情不安な時代に私は青春時代を過ごしました。

中学校修身の授業で、校長先生からクラーク博士の「Boys be ambitious(少年よ大志を抱け)」を教わりました。その言葉は、幼いながらに私の脳天を直撃し、体内に電流が流れました。

今、世の中は政治、経済はもとより、社会問題、環境問題など未曾有の不透明で不安な時代にありますが、若いこれからの人達には“大志”を抱いて自ら世の中を切り拓いてほしいと思います。

しかし、最近の若い人たちを見ていて思うことは、人間的にバランスのとれた人が少ないということです。また、バランスをとろうとがく人も少なくなってきています。学業が優れていてもコミュニケーションがとれない、挨拶ができない、といった本来人間が持つべき姿を忘れてしまった人が非常に増えてきています。

幸い、面談に来ていただく奨学生の方々は高い志と情熱を持ち合わせたバランスのとれた優れた人が多く、エネルギーをいただいております。



財団法人
伊藤青少年育成奨学会 理事長 伊藤 喜美

「水を飲んで、蛇はこれを毒とし、牛はこれを乳となす」という諺があります。

10人いれば、見聞きしたことも10色に解釈されることがあるでしょう。その中で、重要だととらえる人もいれば、自分には必要ないと排除してしまう人、人によって受けとり方は異なります。

生きていく中で何を吸収し、自分の血や肉にしていけるのか。「する」か「しないか」、「受け入れる」か「受け入れないか」。この差というものは、今後の人生に大きく関わってくるのではないのでしょうか。“物事に対する感度を高めることができる人”、模索しながらも“考え、人生観を打ち出していける人”、こういった人が社会に出てからも「リーダー」として動いていけると思っています。

新年に思いがけない年賀状をもらいました。終戦後一度も会っていない戦友からでした。早速電話で話しました。同期生は大部分が亡くなっています。

選ばれて特攻隊に行つて死んだ人もいました。彼らの往くときの遺言を集めたものが残っています。弟に向かって、「これからゆく。日本男子として家門に恥じない行動をとる。人様に後ろ指を指されるような人間になるな。両親に迷惑をかけるようなことを

するな。卑怯者と言われる男になるな。立派な日本人になれよ。」と。死んでいった人間が「立派な日本人になれよ」と言っています。

立派な日本人になるのはそんなに難しいことではありません。こんなことをするなよというのは人間として基本的な簡単なことばかりです。しかし現在では、簡単に人を殺したり、親子で情けないケンカをしたり、乱れています。教育勅語の中にある「父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友を相信じ」ということは平凡なことなのです。

私は今年88歳になります。戦争で死に損なったと思った時期もありました。仲間は南方やビルマなどで死んでいきました。そこから後はすでに余生だと思つてがんばってきました。

財団も今年で設立10年目を迎えます。

みなさんには立派な日本人になっていただきたいと切実な想いをいただき、体力の許す限りお役にたちたいと考えております。



【クラーク精神の継承】
クラーク博士より直接教えをうけた1期生達により、その精神は継承されていきました。特に2期生には、自由平等博愛の精神を持ち、国際連盟事務次長となった国際人新渡戸稲造(代表著書「武士道」)徹底した平和主義者で多くの人々に思想的な影響を与え、札幌独立教会を創設した思想家の内村鑑三、世界的な植物学の権威者となり多くの植物学者、藻類学者を育て、北大付属植物園を創設した宮部金吾など著名な人材を出しました。
内村鑑三は「少年」とは、決して普通にいわれる少年に限らず、「希望に邁進している全ての人である」と言っています。この志を次の世代に受継いでいきたい

クラーク博士とは
ウィリアム・S・クラーク博士(William Smith Clark, 1826-1886)は、日本に来る前はアメリカ合衆国マサチューセッツ州農科大学の学長でした。そんな博士が北海道にやってきたのは1876年7月のことでした。当時の北海道開拓使の長官、黒田清隆に招かれ来日しました。
クラーク博士が呼ばれた理由は、北海道開拓に際し、北海道の農業技術を向上させることでした。そして当時札幌農学校と呼ばれた北海道大学の初代教頭として就任しました。
自由・独立・人間尊重を基盤として、校則は「Be Gentleman(紳士たれ)」だけでよいとし、クラーク博士の強い影響で独特な校風が出来上がりました。禁酒させ、キリスト教も教えました。それからクラーク博士の教えは、教えたたちや、その後の北海道開拓にも多大な影響を与えるものとなりました。
任務を終えアメリカに帰るとき見送りに来た学生達に「Boys, Be Ambitious(少年よ大志を抱け!)」という言葉を残して去って行きました。
北海道民ならだれでも知っています。有名なセリフ。そしてそれと同時に思い浮かぶ、札幌市羊が丘展望台にある右腕を水平に伸ばしたブロンズ像。北海道民のほこりであり、北海道開拓・フロンティアスピリッツのシンボルの存在でもあります。





先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

2009年3月ご卒業の方からのお便りです

「大学生活を振り返って」



長瀬 健太郎

岡山大学環境理工学部環境物質工学科卒

お世話になっております。2009年3月25日に無事4年間の大学生活を終えるため、そのご連絡をさせていただきます。まず、大学卒業後の進路ですが、大学院への進学が決まりました。進学先は岡山大学大学院環境学研究科です。引き続き、岡山で学生生活を送らせていただけることになり、嬉しく思っております。この大学4年間で振り返って、「大学に行けて良かった」さらには「その大学が岡山大学で良かった」と思っております。入学当初、初めての一人暮らし、初めての土地での生活。不安と期待でいっぱいではまった私の大学生活。生活を送る中で、良き友に出会い、良き先生に出会い、良き環境で学習させていただけたと思います。その中でも、この大学生活に最も刺激を与え続けてくれた、部活動(ウエイトトレーニング部)に出会えたことが、私にとって最も大きな出会いでした。高校でやっていたウエイトリフティングの経験を活かし、さらに伸ばせる唯一の部活動。「パワーリフティング」という競技に出会い、高校とは違った大学で行う部活動の面白さを知りました。喜びも、悲しみも、悔しさも常にこの部活動が私に与えてくれました。そして、ウエイトトレーニング部は私の夢を叶えてくれました。「世界大会でメダルを獲得する」この夢を抱かせてくれ、叶えさせてくれたのもウエイトトレーニング部。そして、その世界大会に行くことができたのは、紛れもなく貴財団の奨学金のおかげです。本当に感謝しております。この4年間で数々の貴重な体験をさせていただくことができました。改めて、ここに感謝の意を述べさせていただきますと思います。ありがとうございました。今後も、貴財団の益々のご発展をお祈りします。

奨学会から



長瀬健太郎さんは、全日本学生パワーリフティング選手権大会にて個人優勝。この大会で、岡山大学は団体総合優勝を果たし、大学史上初となる4連覇を達成。続く世界ジュニア大会の予選となる全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会において優勝し、世界大会の出場権を獲得。世界ジュニア大会では、総合4位、種目別ベンチプレスにおいて銅メダルを獲得されました。



安 好

千葉大学園芸学部緑地環境工学科卒

拝啓 貴会ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。秋が深まり、紅葉が綺麗な季節になりましたが、恵那峡も見頃でしょうか。この度は、教員採用試験を終え、次の就職地が決まりましたので、ご報告にお手紙を書かせていただきました。近況報告でもお伝えしましたが、採用試験の結果、千葉県に決まりました。私は、恵那農業高校で3年間勉学に励むことで、大学という新たな道を開くことが出来ました。高校入学当時は自分に自信を持つことが出来ませんでしたが、農業クラブ活動や、世界らん展への取り組みなどを通して、自信を持ち大きく成長することが出来ました。私が農業を学び始めた原点が、農家に生まれたことにあり、また農業を学びたい!広めたい!という思いを強くしてくれたのが、恵那農業高校での生活です。そして、大学でこうして3年半、勉学やサークル活動に励むことが出来たのも、岐阜で育てられた土台があるからだと思っております。

岐阜に戻り、私を育ててくれた農業高校で恩返しをしたい!その思いで採用試験に臨みましたが、力があと一歩およばず不合格となりました。岐阜県に合格することが出来ず、本当に申し訳ない気持ちで一杯です。伊藤理事長をはじめ、奨学会の皆様には、大学入学時からあたたかいご支援をいただき、今まで勉学に励むことが出来、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。すぐには岐阜に戻ることが出来ませんが、千葉で教員としての土台づくりをし、岐阜で力を発揮出来るよう頑張りたいと思います。そして、数年間千葉で教員として経験を積んだ後、岐阜の採用試験にもう一度挑戦し、岐阜で教壇に立つことを考えています。岐阜の地に戻った際には、地元にて貢献出来るよう頑張りますので、今後ともよろしくお願いたします。

敬具

成瀬 一彦

日本体育大学体育学部体育工学科卒

僕の大学生活も残り1ヶ月程になりました。大学生活4年間は高校の3年間よりも早く感じました。初めて地元から出て横浜で暮らす事になった時はすごく不安がいっぱいでしたが、先輩や同級生に恵まれとても充実した4年間でした。毎日レスリングの事を考え、レスリング中心の生活でした。しかし、その中であいさつや返事などの礼儀、先生や先輩に対する態度や言葉づかい、団体生活のマナーや協調性などをこの4年間でしっかり身につける事ができました。社会に出て日体大で学んだ事を忘れずにしていきたいです。少しずつでしたが成績を残す事ができました。しかし、はっきり言ってこの成績では満足する事ができません。最後の1年を不甲斐ない成績で終わってしまったのが悔しいです。自分の目指している目標はオリンピックです。その目標を達成するために社会人になってもレスリングを現役で続ける事を決めました。就職先は警視庁です。警視庁のレスリング部からお誘いがあり、警視庁でレスリングを続ける事にしました。より良い環境でレスリングができる事がとてもうれしいです。今まで以上に高い意識を持って練習に取り組んでいきたいです。自分がどこまでやれるか分かりませんが、オリンピックという大きな目標に向かってこれからも頑張りますので、これからも応援をして頂けるとうれいいます。伊藤青少年育成奨学会のみなさまに自分の活躍が届くように頑張ります。大学4年間でご支援して頂き、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



敬具

山北 知美

岐阜大学教育学部生涯教育課程卒

拝啓 まだ寒さが去りませんが、ますますご隆盛のことと存じます。早いもので、私も三月で大学卒業を迎えることとなりました。四年生でずっと取り組んできました卒業論文も無事納得のいくものに仕上げることができました。

大学に入学してからこれまでを振り返ってみると、本当に時が過ぎるのは早いものだとしみじみ感じます。一年生の頃は、大学生活に慣れるのに最初はいっぱいいっばいでしたが、新しい環境のもと、たくさんの友人もでき、自分の世界も少しずつ広がっていきました。二・三年生になると、学業の方もどんどん専門的になっていきました。私は教育学部なので、学校に実習にも行かせて頂きました。教育実習は、私にとって大変貴重な経験となりました。正直つらいことも多くありましたが、学んだこともとても多く、自分を成長させることができたと思っています。四年では、卒論にひたすら取り組んできました。自分の選んだテーマについて一年間ほどずっと調べ、研究をするということはおそらく今後そうあるのではないと思えます。大学生活のまとめとして、時には行きづまりながらも、ゼミ仲間と励まし合いながら、やりきったこの思いや経験は大切なものになりました。また、三年生の頃から自分の進路については大変悩んできました。自分が何をやりたいのか、何に向いているのか、将来どうなりたいのか、いろいろと考えました。私は自分の進路について、これほどまでに考えたのは初めてだったと思います。その中で、自分の進路を決定しました。私は四月から社会人になります。つらいこと、わからないこともたくさんあると思いますが、前を向いて進んでいけるようがんばっていききたいと思います。

大学生活は私にとって本当に充実した日々でした。無事ここまでやってこれましたのも御会のおかげだと思っております。四年間本当にありがとうございました。

奨学生の声

.....2008年11月までに提出された学業状況報告の一部です。

鈴木 悟司

東京大学理学部生物化学科4年(可児高校卒)

研究室に配属され半年近く経ちました。先のお便りにも書きましたが、ネズミの嗅覚系について研究をしています。この研究で得られた知見は、同じ哺乳類であるヒトが、どのように五感からの情報を脳内で伝達し、またどのように情動の変化(例えば快・不快、好奇心、恐怖など)や意思の決定が行われるのか、という人間存在の根本に迫るような深遠な疑問に対する答えの一部となります。話のスケールは大きく、夢は膨らみますが、現実はず甘くなく、ネズミの脳のスライス何百、何千と作ったり、薬品で細々と染めたりと退屈な作業が幾度となく続きます。駆け出しの身ですので、スライス1枚上手く切れなかったり、

加藤 あすか

京都大学農学部森林科学科2年(大垣北高校卒)

後期から始まった実習では主にフィールドワークが多く、琵琶湖や広台寺国有林、比叡山国有林など様々な森林を見学しています。どこの森林でも、言われるのが「マツが枯れている」「財政難」「人手不足」で、これは即ち日本全体の森林が抱える問題であるといえます。特に「マツ枯れ」は今急速に日本の森林に広がっている問題で、外来種のキクイムシによるものなのですが、今のところ

伊藤 理恵子

国際基督教大学教養学部アーツサイエンス学科1年(滝高校卒)

一学期は環境に慣れることだけで精一杯でしたが、東京の生活にも慣れた分、二学期はじっくり勉学に励むことができ、知的好奇心が満たされていく喜びを感じることができました。講師や教授が日本語話者ではないため、授業はほぼ全て英語で行われますが、夏休み中にオーストラリアのラ・トロープ大学に留学し、英語のスキル、授業の受け方を改善することができたため、一学期より、言語的な問題に直面することもなく、意欲的に授業に参加できました。国際基督教大学では、物事を深く批判的、論理的に判断することを基礎として学

柄澤 一樹

京都大学理学部1年(恵那高校卒)

今の講義はほとんど全てが一般教養です。その中で、特に生物学と教育学に励んでいます。生物学は高校のときから好んで勉強していたので、大学の講義でもスムーズに理解できています。後期からは実験も始まり、研究活動をする上で基本操作を少しずつ身に付けている最中です。2回生からは専門の講義を選ぶこともできるようになるので、今は基礎を固めています。教育学では、社会の変化と学校・家庭教育について考えているのですが、先日の講義で地域の共同体内のつながりが弱く、親どうし、子どもどうしの触れ合いが少ない上、世代が異なる人が交流する場が消えつつあると話を聞きました。しかし、私が育っ

田中 恵理

中央大学商学部会計学科1年(県立岐阜商業高校卒)

私は、この前期の期間に、中央大学に進学した目的である公認会計士の勉強に特に力を入れて取り組んできました。基本的には、毎日、大学内にある経理研究所から貸与していただいた研究室で、開門の朝8時から夜11時まで勉強しており、大変ですが充実した日々を送っています。そしてその結果、5月に行われた一次試験では、今回の最年少で合格することができました。私はこの結果を受けて、自分のやってきたことに自信を持つことができました。また、来年の二次試験に必ず合格し、先輩方の最年少記録に並べるように頑張ろう

上田 昌子

岐阜聖徳学園大学教育学部初等教育学科1年(吉城高校卒)

大学での講義は自分の興味のある分野でもあり、とても興味深いものばかりです。前期には「学校ふれあい体験」というカリキュラムの中で、岐阜県羽島市の小学校にきました。教師という職業を今までは児童・生徒からの立場からしか見ていなかったけれど、この体験から教師の多忙さ、難しさを知りました。しかし、実際の様子を見たり、子どもたちとふれあってみると、子どもたちが頼ってきてくれたり、笑顔で話しかけてくれたりと大きな喜びがありました。子どもたちの生き生きとした姿を見ると、私も元気になり、嬉しくなりました。このような子どもたちの姿が教師という大変な仕事を続ける源になっている

薬品も染まらなかつたり、心が折れそうになることが多々あります。ただその分、たとえ簡単な実験でも自分の予想したとおりになると、(おかげさではあります)自分がサイエンスの道を志したのは間違いではなかったと嬉しく思います。

大学院も同じ道に進むことになりますが、スケールの大きな夢を持って研究していき、人類の「知」を少しでも深められたら、と思います。

奨学会からのコメント	その実験手順と気の遠くなるような継続。我々が科学者を尊敬するのは、成果の蔭にそのような努力があるのを知っているからです。養老孟司・茂木健一郎を超える日を待ちたい。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

有効な手立てが見つかっていません。これをなんとかするために、もっとがんばらなくては思いました。また、来年の今頃には研究室の配属が決まります。化学系に行きたいという希望は変わらないので、今の勉強の中心は有機化学です。

奨学会からのコメント	森林が本来の樹叢をなし土地が人為的に荒廃していなければ、外来種の被害はいずれ落ち着くはずだが、問題はどこにー。
-------------------	---------------------------------------------------------

ぶのがモットーとされています。そのお蔭で私は入学前よりも何回りも自分の思考、判断能力を成長させることもできたと思っております。私は一学期と二学期で、音楽学、経済学、数学、政治学の基礎を学びましたが、全てがとても面白く、しばしば感動しました。来学期は国際関係学と民芸を学ぶ予定ですが楽しみにして仕方がありません。

奨学会からのコメント	「知的好奇心が満たされていく喜び」という感動的な言葉。国際基督教大学のカリキュラムが良いのか、個人の資質か。日本の大学教育の現状を鑑みると忝懣たるものがあります。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

てきた環境は、いつも地域の大人が傍にいて、子どもどうしがよくまとまっているものだという自負があります。恵那という土地は現代の社会で失われつつある地域のまとまりが存在し続けている素晴らしいところなのだと感じました。この発見がこれからも故郷を大切に思う心を持たせ続けてくれるのは間違いありません。何気ない90分の講義の中に故郷とのつながりを確認できました。

奨学会からのコメント	故郷を思い出してくれて、誇りに思ってくれてありがとう。我々もあなたのことを誇らしく思います。心の中に故郷が存在する人間が、教育学を学んでこそ価値があるのです。
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------

と思っています。講師の先生方は全員現役の公認会計士であり、その先生方のお話に刺激を受け、公認会計士という職業への憧れが日々高まっています。高校までに取得してきた「資格」とは違う、国民経済の発展に寄与するという使命を負った、公認会計士という「職業」を得るといことの意味をこの受験勉強に感じ、これからも努力していきたくと思います。

奨学会からのコメント	公認会計士の監査の着地点をどこに求めるのか。それはあなたの歴史観、国家論にかかっています。資格を単なる職業にしないためにも、教養を広く深く学ばねばなりません。
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------

ことも実感しました。学校での講義やこのような体験から、以前以上に“教師になりたい!”という気持ちが強くなりました。また、現在は福祉の分野にも興味があります。そのため、保育士の資格を得るために自分で勉強しています。好きな分野の勉強であるので苦ではありません。自分の目標を達成するために一生懸命努力しようと思えます。まだまだ未熟な自分であるので、知識や経験を増やし、2年後の教育実習までに力をつけていきたいし、その後のためにも努力していきたくです。

奨学会からのコメント	偉人の回顧録を読むとほぼ生涯尊敬する小学校の先生が登場します。人格が形成される重要な時期。上田先生がんばれ。
-------------------	--------------------------------------------------------